

中学部 ICTの活用により広がる特別支援教育の可能性

事例研究

中学部1年生 重度知的障がい生徒の深い学びにつなげるICTの効果的な活用

実践概要

本実践では、平仮名を読んだり書いたりすることが難しいYくんが、ICTを活用することで、係活動（健康観察、朝の会の進行）に一人で取り組もうとする姿がみられるようになりました。また、国語では、ひらがなカードを順番に並べて単語を構成することができるようになるために、ICTを活用した教材を使って取り組みました。



中学部2年生

余暇活動につながるストレッチ動画等を活用した体育実践

実践概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、臨時休校や集団での学習の制限など学校生活にも大きな影響があり、長期の休校から学校を再開するにあたって、人や物との接触等に困難な面も多くありました。しかし、ICTの活用によって運動の機会を作ることができ、将来の「生涯スポーツ」にもつながる実践を積み上げることができました。



中学部3年生

興味・関心からスタートする情報活用能力の育成、そして各教科等の学びへ

実践概要

本実践では、生徒の興味・関心の高いサッカーチーム「ロアッソ熊本」を題材に、ICT等を用いて、試合結果等の情報を収集・整理した掲示物となる、「ロアッソ熊本掲示板」を通して発信するサイクルを繰り返して行いました。実践を通してタブレットの基本的な操作方法や必要な情報を収集したり、発信の仕方に応じて整理したりする力が身に付きました。また、身に付けた情報活用能力を他教科等の調べ学習で生かす姿も見られました。



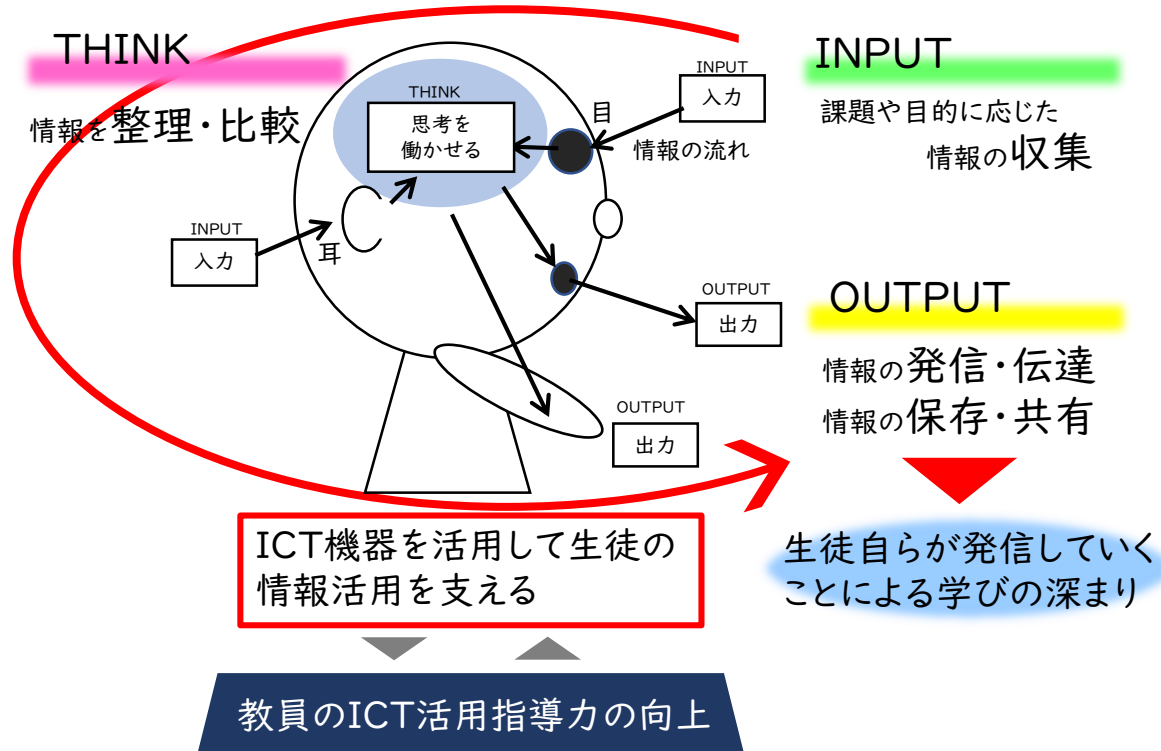
これまでの教育実践の蓄積 × ICT = 学習活動の一層充実
主體的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

中学部では、昨年度まで熊本大学と共同し、教科の本質に迫る授業研究に取り組んできました。本研究においては、これまでの教育実践をベースとしてICTを活用し、学習活動の一層の充実を図りました。その取組を通して、教科の本質に迫る授業研究をさらに進めるとともに、生徒が情報活用能力を発揮して、主體的・対話的で深い学びにつなげることを目指しました。
また、コロナ禍の中でもできることをICTを活用して挑戦し、実践の積み上げと共に教員のICT活用指導力の向上を図りました。

情報活用能力を発揮して

教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。

障がい上の特性や発達段階などにより、思考したり、判断したり、表現したりすることへの困難さがある生徒の学びを支え、思考を働かせていくために、ICT機器を活用して教科の学びの本質に迫りました。



授業研究

中学部Kグループ 国語科:表現を工夫して読もう(朗読)

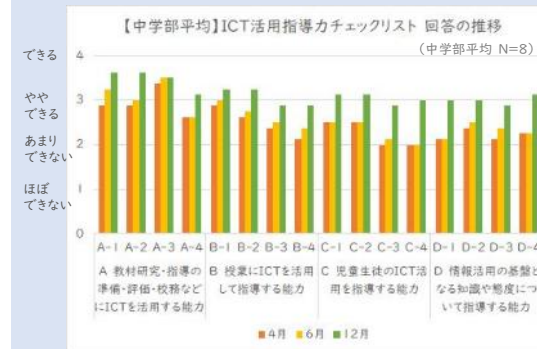
“なぜそのような表現をするのか”

生徒が思考を働かせた「音読」から「朗読」への転換

本実践では、「正確に」「はっきりとした声で」表出する「音読」から、詩の内容を理解し想像しながら、作品の特性を自らの音声を工夫して表現する「朗読」へと変えていきました。読みの技能について理解を深めるとともに、「思考力、判断力、表現力等」を働かせて、一人一人の表現の違いがあることや、聞き手を意識して自分なりに表現を工夫し、言葉の響きやリズム感の良さに気付くことをねらいとしました。



教員のICT活用指導力のグラフ



考察

教師のICT活用指導力の向上とともに、授業づくりにICT機器等を取り入れ、生徒の実態に応じた効果的な学習が展開されるようになってきました。また、次年度からの1人1台端末の環境が実現する前に、生徒の情報活用能力を育む基礎が築かれたと考えます。学習効果の最大化を目指し、今後は生徒の情報活用能力を、どの場面で、どのような形で育てていくのか、教科横断的な視点に立って年間指導計画に位置付け実践していきます。

※この他に2事例、ICT活用に挑戦した実践を紹介します。